

【記入例】教科別の指導用

〇〇支援学校 小学部 5年1組 算数科 学習指導案(細案例)

日 時 令和〇年〇月〇日〇:〇〇~〇:〇〇

場 所 小学部5年1組 教室

指導者 〇〇 〇〇(T1)

〇〇 〇〇(T2)

1 単元名 「10までのかずをかぞえましょう」(さんすう☆☆(1)文部科学省)

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態[5年1組・3名]

本学級は、5年生の3名で構成され、全員が知的障害を有している。学級内の人間関係は穏やかであるものの、それぞれの興味関心が異なり、互いにやり取りする場面は少ない。学習に関しては、どの児童も集中できる時間は限られているが、興味のある学習には座って参加できる。A児はダウン症で発語があり、友達と関わることが好きである。B児はASDも有しており、少々多動な面が見られるが、学習には意欲的に取り組む。C児は発語が不明瞭だが、担任の二語文程度の簡単な指示は理解できている。

算数科については、これまでに順序数(ものの順番や位置を表す数)や集合数(ものの集まりの大きさを表す数)を理解するための素地を養うことをねらい、児童の生活経験に則した指導を行ってきた。それらの指導においては、数を表す言葉があることや、数を数える際には、数が順番に並んでいることが分かるような工夫をし、1から10までの数唱に親しむ学習に取り組んできた。A児は5までの数詞を唱えながら数えることができる。B児は10までの数詞を正しく唱えることができ、具体物を5までであれば数えられるようになった。また、C児は発語が不明瞭だが、3までの数を指で示すことができるようになってきた。

(2) 単元観

本単元は、特別支援学校小学部学習指導要領算数科「A数と計算」の、以下の目標・内容を受けて設定している。

A数と計算 2段階 目標

ア 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。

イ 日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。

ウ 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。

A数と計算 2段階 内容

ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

[知識及び技能]

(ア)①ものの集まりと対応して、数詞が分かること。

[思考力、判断力、表現力等]

(イ)①数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。

この学級では前時までに、視覚や触覚等の感覚を働かせながら、10までの範囲の数において、ものとのものを一対一に対応させるなどの活動によって、どちらが多いか少ないか、同じかを判断する学習を行っている。本単

元では、数えるものを移動させたり、指差ししたりしながら、数詞とものを対応させて正しく数えるようにし、最後の数詞が集合数を表していることが理解できるような構成としている。また、10までの数を数える活動を通して、身の回りのものを数えたり、具体物や半具体物を操作したりするなど、日常生活で活用しようとする態度を育てることができる単元である。

(3) 指導観

指導に当たっては、数える対象物を1から10まで一つずつ指さしながら数唱したり、具体物や半具体物を使い、ものの集まりと対応する数詞が分かるような指導をしたりすることで、最後の数詞が集合数であることが分かるようにし、数詞や集合数の理解を目指していきたい。振り返りでは、自分が取り組んだ学習内容を確認し、できたこと、学習したこと、頑張ったことを発表する場を設定する。その際、「かずの達人カード」にシールを貼って称賛することで、児童の自信や主体的に取り組む意欲を高めていきたい。

3 単元の目標

- (1) ものの集まりと対応して、数詞が分かる。〔知識及び技能〕
- (2) 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ものの集まりと対応して、数詞が分かる。	数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かしている。	数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。

(2) 単元の指導計画(5時間扱い 本時2/5)

次	小単元名	時数	学習活動	評価規準			評価方法
				知・技	思考・判断	主	
1	10までのかずをかぞえましょう①	1	〈1～10までの数唱に親しむ〉 ・かくれんぼで鬼が数を数える	・			行動観察 発表
2	10までのかずをかぞえましょう②	1 本時	〈数唱・数える(1～5)〉 ・動物やたんぼぼの数を数える	・			行動観察 発表
3	10までのかずをかぞえましょう③	1	〈数唱・数える(1～10)〉 ・子供や風船の数を数える	○	・		行動観察 発表
4	10までのかずをかぞえましょう④	1	〈具体物を半具体物に置き換えて数える〉 ・風船の数をおはじきを使って数える	・	○		行動観察 発表
5	10までのかずをかぞえましょう⑤	1	〈具体物を半具体物に置き換えて数える〉 ・動物の数をおはじきを使って数える	○	・	・	行動観察 発表

※ ○:記録に残す評価 ・:指導に生かす評価

5 単元の個別の目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
A 児	1から10までの数唱とものとは対応していることが分かる。対応させながら数唱していった最後の数詞が集合数であることが分かる。	数詞とものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさについて考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。	ものの集まりや数詞に関心を持ち、楽しさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。
B 児	雑然と配置されたものでも、まとまりとして数え、1から10までの最後の数詞が集合数であることが分かる。	数のまとまりに着目し、数詞とものとの関係、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。	ものの集まりや数詞、数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。
C 児	1から10までの数唱に親しみ、教師の支援を受けながら集合数を意識することができる。	数詞とものとの関係について興味を持ち、それらを学習や生活に生かすことができる。	ものの集まりや数詞に関心をもって学ぼうとしている。

6 本時の計画

(1) 小単元名「10までのかずをかぞえましょう②」

(2) 本時の目標

- ・1から5までのものの集まりと対応して数詞が分かる。〔知識及び技能〕

(3) 本時の指導に当たって

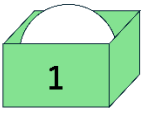
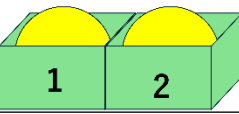





前時までに学習した数唱を思い出し、果物模型やボールといった具体物、動物やたんぼぼといった挿絵、自作教材スライド等を指さしながら一つずつ数詞とものとは対応させ、数唱から数える学習へとつなげていくようにする。教科書の挿絵をそのまま提示すると、数えるものがたくさんあり、どれを数えるのかが分かりにくい。数える対象を分かりやすくするための工夫として、モニターを用意し、拡大した挿絵を一種類ずつ提示する。また、集合数が意識できるように、スライドでもの集まりを見やすく示すとともに、ものの集まりが理解しやすい話形を繰り返し用いるようにする。その際にはできるだけ何匹・何個などの助数詞を用いないように配慮しながら学習を進めていく。

(4) 児童の実態と個別の目標及び評価

	児童の実態	本時の個別の目標	手立て	評価
A 児	5までの数を数唱することができる。 一対一の対応は、3までの数は確実に分かる。	動物等の数を数え、3までの数において、最後の数詞が集合数であることが分かる。	「○○は1、2、3。全部で3」などの話形を用いるとともに、スライドでもの集まりを枠で囲んで示す。また、友達が数えている様子を見てから行うよう活動の順番を工夫する。	スライドを見ながら蝶の数を数えて、「1、2、3。全部で3」と答えることができる。
B 児	10までの数を数唱することができる。 一対一対応は、5までの数が分かる。	動物等の数を数え、5までの数において、最後の数詞が集合数であることが分かる。	「○○は1、2、3。全部で3」などの話形を用いるとともに、スライドでもの集まりを枠で囲んで示す。	スライドを見ながらたんぼぼの数を数えて、「1、2、3、4、5。全部で5」と答えることができる。
C 児	発語は不明瞭だが、3までの数を指で示すことができるようになった。	教師と一緒に指さしながら、動物等を3まで数えることができる。	具体物や挿絵を一つ一つ指さしたり、指で数を示したりするなど、教師と一緒に数える。	指を使って1から3までの数を正しく数えている。

(5) 指導過程

段階	学習活動	指導上の留意点 (・→児童生徒の活動 ○→教師の働き掛け ☆→評価)			準備物 ・児童 ○教師
		A児	B児	C児	
導入 10分	1 始めの挨拶をする。	・日直として始めの挨拶をする。	・始めの挨拶をする。	○日直に注目するよう促す。(T2)	○モニター ○拡大挿絵
	2 授業の流れを確認する。	・黒板に示された活動内容を見る。	・黒板に示された活動内容を見る。	・教師と一緒に黒板に示された活動内容を見る。	
	3 既習事項を振り返る。(10・11ページ)	みんなで10までの数をいみましょう。(一斉学習)			
	・前時に学習した内容を確認する。 ・モニターに提示されたかくれんぼの挿絵を見て、みんなで10まで数を唱える。	・かくれんぼをしている場面を見ながら10までの数を唱える。 ○友達が黒板で指さしている様子を見ながら10までの数を唱えるようにする。(T1) ○児童の数唱に合わせて教師が指で数を示す。(T1)	・かくれんぼをしている場面を見ながら10までの数を唱える。 ○友達が黒板で指さしている様子を見ながら10までの数を唱えるようにする。(T1) ○児童の数唱に合わせて教師が指で数を示す。(T1)	○日直と一緒に前に出て、10までの数を指さしし、教師が指で示した数を見ながら唱えるように促す。(T2)	
展開 25分	4 本時のめあてを知る。	全部でいくつか数えましょう。(一斉学習)			
	・黒板に示された今日のめあてを読む。	・友達が発表するめあてを聞く。 ○友達が発表しているめあてをしっかりと聞くように声掛けをする。(T1)	・前に出てめあてを発表する。 ○友達にはっきりと聞こえるように、大きな声でめあてを読むように声掛けをする。(T1)	・友達が発表するめあてを聞く。 ○友達が発表する様子を見るように促す。(T2)	
	5 今日の学習課題に取り組む。	果物を数えてみよう。(個別学習)			
	(1) 果物を数える。 ・りんご(1)を数える。 ・みかん(2)、もも(3)、なし(4)、いちご(5)についても同様に行く。	・机上の果物模型を指さしながら声に出して数える。 ○1回目:教師が1種類ずつ机上に提示し、友達と一緒に数えるように促す。(T1) ○2回目:1回目と同じように提示し、1人ずつ数えさせる。(T1) ○3回目:1・2回目と同じように提示し、教師は数詞を言わずに見守る。(T1)		・教師と一緒に果物模型を指さしながら数える。 ○教師が指で数を数え、それを確認しながら数詞を唱えるようにする。(T2)	・果物模型(3セット) りんご1個 みかん2個 もも3個 なし4個 いちご5個
(2) ボールを数える。 ・白(1)を数える。 ・赤(2)、青(3)、黄(4)、緑(5)についても同様に行く。	ボールを数えてみよう。(グループ学習)				
	・机上のボール(箱に入れたもの)を指さしながら声に出して数える。		・教師と一緒にボールを指さしながら	・ボール(2セット) 白1個	

<p>展開 25分</p>	  <p>・机上のボール (箱に入れたもの)</p> <p>(3) 順番に数える。 (12・13ページ) ・鹿(1)を数える。 ・猿(2)、蝶(3)、小鳥(4)、たんぼ(5)についても同様に行う。</p> <p>(4) 集合数を知る。 ・最後の数詞が集合数を表すことを、教師と一緒に確認しながら唱える。</p> <p>①:  1</p> <p>②:  2</p> <p>③:  3</p> <p>④:  4</p> <p>⑤:  5</p>	<p>○1回目:教師が1種類ずつ机上に提示し、友達と一緒に数えるように促す。(T1)</p> <p>○2回目:1回目と同じように提示し、1人ずつ数えさせる。(T1)</p> <p>○3回目:1・2回目と同じように提示し、教師は数詞を言わないで見守るようにする。(T1)</p> <p style="text-align: center;">順番に数えてみよう。(一斉学習)</p> <p>・順番にモニターの前に出て、挿絵(鹿、猿、蝶、小鳥、たんぼ)を見ながら声に出して数える。</p> <p>○友達が数えている様子を見るように促す。(T1)</p> <p>○友達が数えている時には、静かに見守るように声掛けをする。(T1)</p> <p style="text-align: center;">全部でいくつか数えてみよう。(一斉学習)</p> <p>○「鹿は1。全部で1」「猿は1、2。全部で2」「蝶は1、2、3。全部で3」などという話形を用いる。</p> <p>○「全部で」のタイミングで動物やたんぼぼを枠で囲むスライドを活用する。</p> <p>○友達の学習の様子を見た後に、スライドの挿絵を一つ一つ指さしながら数を唱えさせるようにする。(T1)</p> <p>☆スライドを見ながら蝶の数を数えて、「1、2、3。全部で3」と答えることができる。 [知・技](観察)</p>	<p>ら数える。</p> <p>○教師が指で数を数え、それを確認しながら数詞を唱えるようにする。(T2)</p> <p>○教師が指で数を数え、その数詞を唱えるようにする。(T2)</p> <p style="text-align: center;">全部でいくつか数えてみよう。(一斉学習)</p> <p>○「鹿は1。全部で1」「猿は1、2。全部で2」「蝶は1、2、3。全部で3」などという話形を用いる。</p> <p>○「全部で」のタイミングで動物やたんぼぼを枠で囲むスライドを活用する。</p> <p>○スライドを見て、集合数を答えられるようにする。(T1)</p> <p>☆スライドを見て、たんぼぼの数を数えて、「1、2、3、4、5。全部で5」と答えることができる。 [知・技](観察)</p> <p>○教師が指で数を示し、それを見ながら答えるようにする。(T2)</p> <p>☆指を使って1から3までの数を正しく数えている。 [知・技](観察)</p>	<p>黄2個 青3個 赤4個 緑5個</p> <p>○モニター ○拡大挿絵 5種類</p> <p>○モニター ○拡大挿絵 ○自作教材 スライド 5種類</p>	
	<p>終結 10分</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>7 今日の頑張りを共有する。</p> <p>8 次時の学習を知る。(14・15ページ)</p> <p>9 終わりの挨拶をする。</p>	<p>・黒板のめあてを確認し、本時を振り返る。</p> <p>・頑張ったことを発表する。</p> <p style="text-align: center;">「かずの達人カード」にシールを貼ろう。(一斉学習)</p> <p>・モニターを見て次時の学習内容を確認する。</p> <p>・日直として終わりの挨拶をする。</p>	<p>・黒板のめあてを確認し、本時を振り返る。</p> <p>・頑張ったことを発表する。</p> <p>・モニターを見て次時の学習内容を確認する。</p> <p>・終わりの挨拶をする。</p>	<p>・本時の学習を教師と一緒に振り返る。</p> <p>・教師と一緒に頑張ったことを発表する。</p> <p>○教師がモニターを示し、次時が分かるように促す。</p> <p>○日直に注目するように促す。(T2)</p>

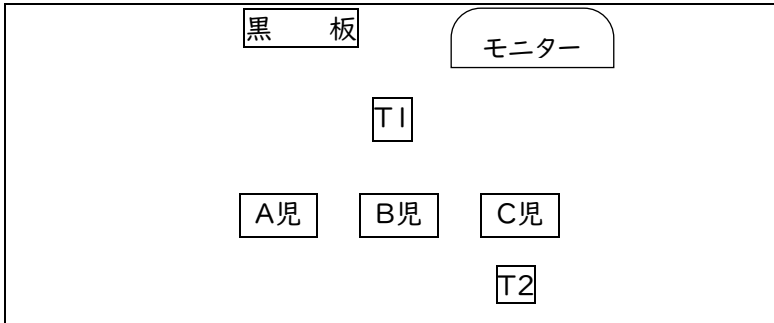
(6) 本時の評価規準

- ・1から5までのものの集まりと対応して数詞が分かる。[知識及び技能]

(7) 準備物

- ・教師: 果物模型5種類(3セット)、ボール5色(箱に入れたもの)(2セット)、モニター、自作教材スライド(5種類)、シール
- ・児童: かずの達人カード

(8) 場の設定




(9) 本時で使用する教材・教具等

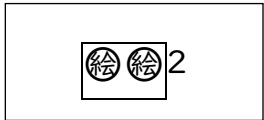
- ・かずのたつじんカード

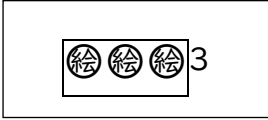
〈かずのたつじんカード〉

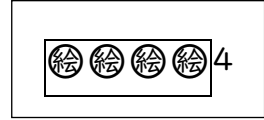
なまえ:	
1 😊(シール)	2 😊
3 😊	4 😊
5 😊	たいへんよくで きました 🌸

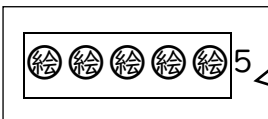
- ・自作教材スライド

① 

② 

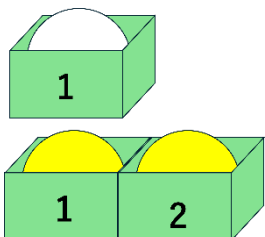
③ 

④ 

⑤ 

「全部で」のタイミングでものの集まりを枠で囲むアニメーションを活用する。

- ・ボール(箱に入れたもの)



同じように1から5まで箱に入れて提示する。